

四国の観光船紹介 -大歩危峡と鳴門海峡-

2024.8.20 池田良穂

今年のお盆には、四国に家族旅行にでかけました。家族旅行では、観光地巡りや温泉が優先で、筆者の趣味の「船」はその次となります。それでも家族を説得して、神戸から高松まではジャンボフェリーの「あおい」に乗船し、徳島県の山間の大歩危峡(おおぼけきょう)の遊覧船(大歩危峡観光遊船運航)、そして鳴門の大塚国際美術館を見学した時に鳴門市内の亀浦港発着の 2 隻の鳴門海峡観潮船(うずしお観潮船運航)の姿を見ることができました。これまで、淡路島側の福良(ふくら)港発着の観潮船には乗ったり見たりしていましたが、鳴門側の観潮船発着港を訪れたのは初めてでした。

神戸-高松 (ジャンボフェリー「あおい」乗船)



神戸港の三突にあるフェリー埠頭からジャンボフェリーの「あおい」に乗船しました。小豆島の坂手経由で、四国の高松に約 4 時間半で到着します。



最前方にあるリクライニングシートの指定席は、使用料が 2000 円かかりますが、前方の展望が良く、すぐにデッキにも出られて写真撮影には最適です。



神戸港を出港直後、入港する「新鑑真」の姿を見ることができました。上海からの到着です。



明石海峡大橋です。漁船がたくさん操業中でした。



播磨灘では「あおい」の僚船「りつりん 2」と反航しました。



播磨灘で反航した鉄鉱石運搬船「ケープ・サファイア」です。川崎汽船の運航です。



「あおい」が東高松港に入港する直前に、高松港に停泊する「飛鳥Ⅱ」が遠望できました。



東高松港のジャンボフェリーの岸壁の横に小型客船「バルカ・ソラーレ」(左)と「ぺんてん」(右)が停泊していました。

大歩危峡

大歩危峡は四国の吉野川の上流にある絶壁に挟まれた急流地帯で、「歩くのも危険な場所」というのが名前の由来とか。遊覧船は、高低差の大きい急流箇所の中の、大歩危と小歩危の間の比較的流れの穏やかな区間を 30 分で周遊しています。両岸の絶壁には道路と鉄道線路が造られており、現在は鉄道でも車でも容易に行けるようになりましたが、昔は秘境でした。



大歩危峡の絶壁の上から、大歩危峡観光遊船の乗り場を見下ろしました。エンジン付きの遊覧船が 5 隻ほど運航されていました。航海時間は 30 分ほどで、乗船料は 1500 円でした。断崖に造られた坂道を徒歩で降ります。



大歩危峡観光遊船のボートです。船尾に長い艀がありますが、運航時には使われていません。エンジンが故障の時の緊急時用なのか、単なる飾りなのかはわかりませんでした。



大歩危峡観光遊船のボートです。流れに逆らっての航行中です。

鳴門海峡



鳴門海峡の渦潮の中を航行中の遊覧船「わんだーなると」です。海面が渦巻いているのがわかります。



鳴門市の亀浦港に入港する、うずしお観潮船が運航する「わんだーなると」です。



亀浦港に停泊中のうずしお観潮船の「アクア・エディ」です。水面下に窓があり、海中を覗くことができます。



亀浦港の観光船桟橋に停泊する「アクア・エディ」と、入港する「わんだーなると」です。

明石海峡



高速道路の淡路サービスエリアで休憩中に、大型 LNG 船「アリスティディス I」が、2 隻のエスコートボートに先導されながら通過していきました。